



JIC インフォメーション

第 164 号 2010 年 10 月 10 日

年 4 回 1・4・7・10 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F

TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪オフィス: 〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-1-22 フェアステージ大手前ビル 5F

TEL: 06-6944-2315 jicosaka@jic-web.co.jp

ロシア・旧ソ連 国際交流誌

“○○の秋” 到来!!



— サント・ペテルブルグの秋 夏の庭園にて —

アルメニア渡航記

神保 泰興 2-4P

Как я провел летние каникулы —僕の夏休み—

林 寛之 5-7P

<連載>「エクメネの最果てへ」—サハ共和国 冬の旅—

岡本 健裕 8-10P

JIC おススメ情報 11-13P

JIC モスクワ通信 14P

ペンパル情報 15P

JIC 情報 16P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

アルメニア

渡航記 神保 泰興

2010年1月31日から2月3日まで、アルメニア・エレヴァンを訪問する機会を得ました。すでに半年以上前のことになってしまいましたが、今回、あまりなじみのないこの国の事を、皆さんに少しでも知っていただく機会になればと思い、筆を取りました。

経由地のモスクワより、アエロフロート航空SU191便、モスクワ時間23時45分発でエレヴァンに向かいました。今回は、ビジネスクラスを利用しました。機材は近・中距離路線用のエアバスA319。長距離線ではないのでフラット

にはなりません、フットレスト付きで、ゆったりとしたブルーの革張りのシートは、リクライニング



＜ビジネス座席＞

の角度も大きく、ゆったりとくつろげます。ウェルカムドリンクのシャンパンをすすめられ、普段乗り慣れないビジネスクラスの雰囲気です。すでに酔っていた私は、飲めないお酒に手を出してしまい、とたんに深い眠りに落ちてしまいました。

あっという間に約3時間のフライトは過ぎ、午前3時45分(モスクワとの時差+1時間)エレヴァン着。ずっと眠り続けていた私は、着陸の軽い衝撃に我に返るとすぐ、楽しみにしていたビジネスクラスの機内食を食べ損ねたことに気づき、深い喪失感とともに、初めてアルメニアの地に足を踏み入れたのでした。

数年前に改築されたばかりのエレヴァン・ズヴァルトノツ空港は、欧州の他の国に引けを取らない、現代的な空港です。ただ、空港の随所に入管職員や警官がおり、トランジットエリア内での写真撮影は厳禁となっていました(こっそり撮影しようとしたが、すぐにスタッフが飛んできて、厳重注意を受けました)。

今のところ、日本にアルメニアの大使館はないので、入国時に査証を取得する必要があります。備え付けの用紙に必要事項を記入し、証明写真を貼り、パスポートと共に



＜アルメニア美人＞

査証発給窓口に出します。すると別の支払窓口に戻るよう促され、そこで査証代金3000AMD(アルメニアドラム=720円ほど)を支払い、レシートをもらって、再び査証発給窓口に戻り、査証を受け取ります。査証窓口の横に両替所があるので、その場でアルメニアドラムは手に入ります。

査証を受け取ってから、入国審査になります。入国カードなどはありません。質問は何もなく、そのままスタンプを押して通過しました。荷物を受け取ると、アルメニアの携帯電話会社のカウンターがあり、プリペイド携帯のSIMカードを無料で配っていました。ロシア契約のプリペイド携帯電話を持っていたので、SIMカードを取りかえればアルメニアのローカル携帯電話に早変わりです。日本の携帯電話も、早くSIMロックを解除してくれば便利になるのに、と思うことしきりです。

税関(何のチェックもなし)を抜けると、現地手配旅行社のスタッフ女史が出迎えに来てくれていました。金色のメルセデス製マイクロバスに乗り、約20分で市内中心に入ります。未明の市内で、人通りはほとんどありませんが、街灯に照らされた建物は、世界最古の都市のひとつと言われる、ここエ

レヴァンの歴史を感じさせる趣のあるものばかりです。

今回、利用した「ゴールデンチュールリップホテル・エレヴァン」は、エレヴァンの中心、共和国広場から徒歩3分ほどの好立地で、赤い石造りで、ギリシャ風の白い円柱がアクセントのホテルです。10年ほど前に、イタリアの企業の手でリニューアルしたそうで、4階建て104室、比較的小さな規模ですが、華やかで清潔感があります。



＜ゴールデンチュールリップ・ホテル＞

全室バスタブなしなのは、日本人の私としては少々残念です。全室無線LAN利用可能とのことでしたが、電波が弱いせいか、



＜ガルニ神殿＞

部屋ではなかなかネットにつながらず、吹き抜けになっている、1階のティーラウンジでパソコンを使いま

した。

ガラス張りになっている1階のレストランから、通りを歩く人々の様子を眺めながら朝食をとりました。バイキング式で品数も豊富。街を行く人々の服装も良く、首都中心部の目抜き通りであることを割り引いても、この国が比較的豊かであることを感じさせられます。スタッフ女史によると、アルメニアの輸出産業はダイヤモンドや金、モリブデンなどの希少鉱物資源や、宝石類の加工など。人口の大半がエレヴァンをはじめとする都市に集まっており、農業従事者は意外にも1割に満たないそうです。アルメニアといえばコニャック、コニャックといえばぶどうですが、イメージと現実はずいぶんと異なるものです。しかし、朝食バイキングにあった干しぶどうは本当においしく、ついつい手が伸びてしまいました。

この日は午後からガルニ神殿とゲカルド修道院を見学しました。エレヴァンから南東に30キロほど離れたところにあるガルニ神殿は、紀元前3世紀に築かれた、アルメニア王の夏の離宮として使われていた場所で、再建された「太陽の神殿」のほか、当時の浴場の跡などを見学することができます。黒と青の玄武岩で築かれた石造りの神殿は、現在



＜ゲカルド修道院＞

でも堂々たる威容を誇っています。エレヴァンの人々にとって特別な場所である、ここガルニ神殿には、結婚式を迎える何組ものカップルが、付き添いの人々と共に、次々と訪れていました。

ガルニ神殿から、山道をさらに6キロほど進むと、ゲカルド修道院があります。4世紀からの歴史を刻む洞窟修道院で、アルメニアの建築家と石工が巨岩を掘り抜き、装飾を

施して聖堂や廟などを築いたものです。主要な建築は13世紀のものだそうですが、暗闇をぼんやりと照らすロウソクの灯は、太古の歴史に私たちを引きこんでくれます。内外のたくさんの観光客が集まっていましたが、なかでも、社会科見学の中学生の団体が目立ちました。自国の誇り高い歴史を学ぼうということでしょう。アルメニアは世界の美女の国だと誰かが言っていましたが、将来のアルメニア美人たちに、記念撮影をせがまれ、シャッターを切りました。

エレヴァンに戻り、夕食はスーパーで食料品を買うことにしました。驚いたのは、お菓子などの加工食品の多くは、ロシアなどからの輸入品だったことです。しかし、さすがにワインとブランデーは、アルメニア特産のものでした。お酒が飲めない自分が、本当に惜しく感じられました。

翌日は、アルメニア正教の総本山であるエチミアジン大聖堂を訪問しました。アルメニアは、西暦301年に世界ではじめてキリスト教を国家宗教として認めた国ですが、ここ



＜ノアの箱舟の破片＞

エチミアジン大聖堂は、その2年後、303年に創建されたものです。つまり、世界最古の公式教会であり、2000年に

は世界遺産に登録されています。大聖堂の内部には宝飾館があり、磔にされたキリストの脇を刺したというローマ兵の槍、ノアの箱舟の破片、キリストの遺骨が納められているという、黄金の右手などが展示されていました。これらはアジア各地にある「仏舍利(釈迦の遺骨)」と同じく、世界中あちこちに本物と称するものがありますが、場所が場所だけに、何やら本物らしい気にさせられます。

夜はアルメニア料理を楽しみました。ロシアなどでシャシリクと呼ばれる串焼き肉は、こちらではホロボツと言います。牛も豚もありましたが、肉質が軟らかく、他のどこよりもおいしく感じられます。これをラワシという薄皮のパンで包んで食べるのがアルメニア風。また、ぶどうなどの葉にご飯を包んだトルマは、トルコにもありますが、もともとはアルメニアのものだったそうです。料理の味付けに、あんずや干しぶどう、ざくろなどの果物を加えるのもアルメニア料理の特徴だそうです。

翌日、エレヴァン市内のマテナダラン(古文書保管所)、パラジャーノフ博物館に足を運びました。マテナダランは、エレヴァン市内を一望する高台に建っています。古くから、トルコをはじめとする異民族の侵略を受けてきたアルメニ

ア人にとっては、言語と宗教を守ることが、民族性を守ることにつながるとして、エレヴァンでも最も良い場所にこの建物を建てたそうです。ここにはアルメニアの古文書だけでなく、日本をはじめとする世界各国の古文書も保管されているそうで、それらの学術的価値はとても高いものであると聞きました。



<アララト山>

次に、アルメニアが生んだ世界的に有名な映画監督、セルゲイ・パラジャーノフの博物館です。彼の生涯や足跡をたどる展示ももちろんですが、彼が5年間を過ごした収容所で描いた絵や、映画製作の合間に作った前衛的なオブジェなどがたくさん展示されており、実に不思議な雰囲気博物館でした。

わずか4日のエレヴァン滞在はあっという間に過ぎ去り、2月3日、モスクワに戻る日となりました。実は、この日になるまで、天気恵まれず、アルメニア人の心の故郷・アララト山(現在はトルコ領になっている)を一度も見ることができていませんでした。しかし、市内から空港に向かう道でやっと、かすかに、アララト山の頂上が、雲の間からちらりと姿を見せてくれました。同行していたスタッフ女史曰く、「またエレヴァンにおいて、アララト山が挨拶してくれたのですね」。

エレヴァン11時ちょうど発のアエロフロート航空SU196便にて機上の人になりました。

念願の機内食に舌つづみを打ちつつ、ふと窓を眺めると、雲海に見事なアララト山が浮かんでいます。再び、アルメニアを訪れることができました。ことを願いました。



<機内食>

<おわり>

◆お知らせ◆ JIC インフォメーションの電子化について

日頃は JIC インフォメーションをご愛読いただきありがとうございます。JIC では電子版インフォメーションの読者を募集しています。具体的にはメールアドレスをご連絡いただければ、PDF 形式でダウンロードできるように、毎号発行時に案内メールをお送りいたします。ご希望の方は E-mail アドレス「jictokyo@jic-web.co.jp」にご連絡ください。件名を「インフォメーション」とし、①お名前、②ご住所、③お電話番号、④メールアドレス に電子版インフォメーション希望の旨を書き添えてお送りください。よろしくお願い致します

語学の秋 ロシア語講座 後期

10月中旬より始まります!

JIC東京ロシア語講座

受講料: 全 17 回 51,000 円

定員: 1 クラス 4~8 名程度

会場: 国際親善交流センター 東京オフィス(東京・四谷)

●入門 月曜 19:00-20:30

4月開講の通年コース。アルファベットからのはじめ、1年かけて文法を勉強します。

●初級 火曜 19:00-20:30

ロシア語のやさしい文章を読みながら、会話にも慣れていきます。

●中級 水曜 19:00-20:30

語彙を増やしながらかつてロシア語で会話していきましょう。

●文学講読 木曜 19:00-20:30

小説を中心に読み進めながら語学力をアップさせましょう。

●時事会話 金曜 19:00-20:30

新聞や物語など様々な題材を用いながら、会話力をアップさせましょう。

●使える会話① 土曜 10:45-12:15

絵本・ビデオ・音楽などを使って勉強します。中級から上級者が対象。

●使える会話② 土曜 12:30-14:00

ビデオを用いてロシアへ仮想旅行しながら街歩きに必要なロシア語を勉強!

JIC大阪ロシア語講座

受講料: 全 15 回 35,000 円

定員: 1 クラス 5~10 名程度

会場: 国際親善交流センター 大阪オフィス(大阪・天満橋)

●入門 火曜 19:00-20:30

4月にアルファベットから学び始めたクラスのつづきです。基本的には語彙を増やしたり基礎文法を順番に勉強していきます。

●初級 木曜 18:30-20:00

単語だけではなく文章での会話にチャレンジしていきます。基本的な文法の復習にもなります。

●中級 金曜 19:00-20:30

読み物などを使って、会話のバリエーションを増やしていきます。ロールプレイングをしながら様々なロシア語での表現方法を学びます。

●上級 月曜 19:00-20:30

文法・語彙力・会話力のある中~上級の方対象。自分の意見をロシア語で言えるように訓練します。毎回1つのテーマを決めて話す練習をします。

**詳細は各オフィスまで
お気軽にお問い合わせください**

ロシア語講座東京 03-3355-7287

ロシア語講座大阪 06-6944-2315

僕の夏休み **Как я провел летние каникулы** **サッカー好きスタッフH**



JIC スタッフの夏休み日記。
サッカー好きスタッフHがなんと**富士登山**
に挑戦!!! 果たして結果やいかに???



ロシア! な文面がたくさん JIC インフォメーションにたまには毛並みの違うものを、と思い投稿することにしました。いつもは JIC ブログにサッカーのことしか書かないので、今回は JIC の事業内容に沿った投稿にするつもりだったのですが…。なんとかこじつけようと思えば～JIC はみなさんをロシア・CIS 諸国にお連れするだけでなく、その国々の旅行者の受け入れもやっています。よく「富士山に行きたい」というお客さんの声を聞くので、弊社登山部部長が《富士登山マニュアル》なるものを作成(近日ロシア語版完成予定)。翻って自分には行ったことがない…。じゃあ、そのマニュアルに沿って行ってみよう。と思って夏休みに行った富士登山。そのレポート～ということになります。が、はたしてこじつけられているのか…。題名は《僕の夏休み》だし…。



富士吉田五合目出発

山、ナメるな

昨今、山での遭難事故がよく伝えられています。この夏、T シャツ・短パン・サンダルで富士に挑んだ勇者のニュースをご記憶の方もいらっしゃるかと。ロシアの旅行会社からも「桜や紅葉の時期に富士山に登りたいお客さんがいるんだけどさあ」という、この勇者に続けとばかりにチャレンジ精神あふれる問い合わせが来ます。

その無謀なハイキング気分を見事に打破する富士山マニュアル。手前味噌ですが、このマニュアル、よくできてます! 富士山に関すること OT 且 DO を完全網羅。Mt.フジはナメたらいかん! から、プロの見地からの情報もあり、富士登山を細心の注意を払いつつ楽しめる一冊になっています。気を引き締めながら装備を整えました。

賢者と日本の頂きへ

ある日、JIC のとある登山部員が、完成したてのマニュアルをふと手にしたとき、「あー、オレ今度富士山行くぜ」と

筆者が言うと、部員の登山家魂に触れたのか「じゃあ僕も行こうかな」。ということで、2 人で富士登山することに。自分はド素人、一緒に登る人がいると心強い、力も湧く、『賢者』としてアドバイスをしてくれる、迷惑だけ掛けなければ…。

7 月 28 日、10 時頃バスで富士山五合目に到着。そこは、バスターミナル～土産物屋～食堂～広場～と、わりと大きなスペースが広がっていてたくさんの人がいました。これ



観光客で賑わう五合目

から登ろうとする人、下山してきた人、テレビ局の取材、そんな中一番多いのは外国人観光客。富士山 5 合目観光を入れる訪日ツアーはとても多いので、

外国人観光客が多いのは納得。ちなみに JIC 企画の訪日ツアープログラムにも 5 合目は入ってます。

腹ごしらえをし、11 時に登山開始。しばらくは緩やかな上りと下りが混ざっている道に行く。道幅が広く、ゆっくりであるがトラックも通るし、馬や馬車も頻繁に通ります。六合目か七合目までは有料で馬や馬車に乗って行くことができます。片道 6000～8000 円だった気がします。もちろん、トラックや馬車よりも下山してくる人とたくさんすれ違うわけですが、ことごとく顔が虚ろ。そんななへろへろになるものなのかなと思いながら歩いていました。ま、そのころ軽快だったんですよ、我々も。

六合目までは 20 分ぐらいで着きました。平坦なので楽なもんです。テレビ局の人も重たそうなカメラとガンマイクを持って外国人観光客に取材をしていました。そういえば、ミシュランのグリーンガイドで富士山は 3 つ星を獲得しています。メディアも注目するわけです。



八合目元祖室で休憩

迫りくる高山病の影

賢者の立てたプランよりも早いペースで登りました。無理も意識もせず、わりとサクサク登っていたんです。賢者は筆者より常に先行し

ます。さすがは経験者。サッカーで使う体力とは違う! と実感しながら、いいペースで引っ張ってもらえました。スタートから 1 時間で 7 合目に着き、小腹が減ったのでお菓子を食べて、(やっぱりいた)ユルユル装備の外国人登山客を横目に溶岩の固まった岩肌の険しい道をグイグイ登り、2 時間半後には八合目・標高 3100m に着きました。気温は

15 度くらい。さすがにすこし寒くなって上着を追加。なんだか酸素が薄いという感覚から酸素吸引(あとで、颯爽と抜いて行った軽装のアメリカ人に「それは気休めだ」とたしなめられる)、そしてまた小腹が減ったのでおやつタイム。30 分ぐらい休んで、登山再開。このあたりから、溶岩はなくなり、赤土のような斜面が始まります。途中、子供のグループがへろへろになっている。筆者もへろへろなので、頑張れよと言う余裕もない。「お前も頑張れよ」とでも言われそうなもんで。前述のアメリカ人と少し話をしたところ、4000-5000m 級の山をよく登るので Mt.フジはプラクティスだと。とんでもないツワモノ。道中、100m、200m 登っても『八合目』が続くので気が滅入ってきました。〇合目というのを気にしてもしょうがない！と割り切りながら登るようになりましたが、立ち止まる回数も多くなってきたし、正直しんどくなっていました。その証拠に、筆者はこのあたりで写真や動画を全く撮ってません。賢者の記録にはたくさんの写真があり、余裕があったんだなあ。

天候と健康の雲行き

登山開始から 4 時間半、15 時半頃に本八合目・標高 3400m にある本日のお宿、トモエ館に到着。寝床は寝袋ひとつ分ですとか、晩御飯は 17 時ですとか、トイレはチップトイレに協力して下さいとか、ひと通りの説明を受けたあと、とにかく疲れていたの寝袋に直行。ご飯ですっ！とたたき起こされるまでぐっすり寝ていました。夕食はハンバーグカレーをおいしく頂き、同時に朝食の炊き込みご飯+焼き魚を受け取りました。そして次の日のプランの確認。1 時半起床、2 時出発、4 時登頂～御来光～お鉢めぐり～6 時下山開始、10 時五合目帰着。夕食後、いくら早起きとはいえずぐには寝れないので、本八合目観光。まず、山小屋内。わりといろんなものを売っている。バナナ 1 本 200 円、ジュース 500 円という価格帯。仕方ないです。昔は強力(ごうりき)と呼ばれる人たちが、数十キロの荷物を担いで山小屋まで運んできていたらしいです。今はブルドーザー専用道路があり物資の運搬をしているようですが、それでも下界と同じ値段で買えるわけがありませんね。売ってはいませんが、キムタクとツヨシくんの写真がありました。スマスマの企画で登った時のもののようです。外にはトモエ館のほかに山小屋が 2 軒並び、ちょっとした広場のようなものもありました。晴れていたのみんな外に出てきて、虹を見たり、影富士を見たり、絶景と思いいいに過ごしていました。すこし頭が痛くなってきて

いましたが、これからまた寝て明日にはマシになっているだろうとあまり気にせず、ミニ観光を終え、18 時には床に着きましたが…。

寝れないんだよ！ 仮眠程度、とは聞いていたんですが、5-6 時間もあるわけで、普段の睡眠時間と大差ない、かつどこでも寝れる人間を自負していたので、しっかり休めるとタカをくくっていたのが大間違い。寝袋に入っているのに

隣の人と場所の取り合いという暗闘を繰り返したり、消灯のはずが何時になっても自分の真上にある電気が一向に消えなかったり、昼寝で爆睡したせいもあるのか…と、モヤモヤしていたら…1 時。もう起床の時間になってしまった。周りにはみんなむくむく起きだして出発の準備をしている。

頂上への道



あつたま、いてええつつつ！

高山病です。体がとてつもなく重いし、気持ち悪いし、なにしろ頭痛がひどい。体を起こすのが精いっぱい、もちろん朝食の炊き込みご飯も食べる気がしません。すると、「こりゃ、だめだあ〜」という追い打ちをかけるような怒号が聞こえてきました。外は風と雨が横から下から叩きつけるという台風よりひどい天候で、完全に心が折れました。それでも賢者は 2 時ぐらいに山小屋を後にしました。山頂アタックする人、残る人は約半々。暗闘の相手は出ていったようなのでゆつたりと寝れました。小一時間で賢者が無事帰還。途中断念。九合目ではほとんど全員リタイヤ、頂上目指しているのは今日しかチャンスの無い外国人登山客だけ、



8 合目から見た山中湖

と様子を伝えてくれました。行ったら倒れてたな、オレ。勇気ある撤退。そして、また横になり、ウトウト…なんか狭くなってきたな…暗闘再開。5 時半。ほとん

どの人が戻ってきていました。天気も高山病も良くなる気配なし。下界に行けば高山病は治る、と賢者に促され 6 時過ぎに下山開始。下山そのものもキツいうえ、暴風雨だし、頭痛いし、気持ち悪いし、空腹なのに食欲ないし、本当にツラかった…。賢者もこの天候ではさすがに写真を撮ったり、ログをつけている余裕もなかったようで、記録が全く残っていません。

3000m を切ると、頭痛も軽減し、気分的に楽にはなるものの、疲労がすごく、しょっちゅう休憩をとりました。トモエ

館からは下山道を来ましたが、六合目あたりで登山道と合流。やっと知っている道が現れ、疲れが少しだけ薄れました。雨も弱まったものの、登山に適する天気とは程遠い状態の中、これから登る人もいました。頑張っていると思いながら、すれ違う元気そうな顔を見て、はっと気づいたら自分の虚ろな姿が見えてきました。そうです、昨日自分が見た下山者のようになっていたのです。

観光地にするなら

7 月 29 日 9:30 五合目に生還。着いた瞬間いきなり土砂降り。休憩所に駆け込みました。少し暖かくしてあって、テーブルとイスがあり、山小屋で頂いた朝食をここで食べました。おいしかった～。高山病はすっかりなくなっていました。



外国人受け入れをやっているハシクレとして提言をひとつ。それは富士山五合目のインフラ整備・観光客対策です。

人里離れ自然がそのまま残っている山であれば、山は厳しいところだからトイレがちっと不便ですみません、山の水は貴重です、食料の値段が少々高くても申し訳ないです、というのは仕方ないと思います。

昨年、スイスのローツホルンという山に行きました。その山頂は富士山五合目とだいたい同じ 2350m。山頂には登山鉄道かロープウェイでしか行けませんが、レストラン、ホテルがあり、トイレも普通だし、物価も通常と変わりません。

翻って、富士山五合目。『みんなが登れる富士山』と観光喚起をし、山の中腹とは思えないほど人の往来があり、鉄道はないにしろトラックがゆうに通れる道路が整備されているにもかかわらず、受け入れ体制が甘い。特にレストラン、トイレ、水道の弱さが目立ちます。先ほど、朝御飯を食べる前にももちろん着替えをしたわけですが(レインウェアを着ていたとはいえ、風雨と汗でビショビショ)、更衣室がないのでトイレで着替えました。少々の悪条件でも私は大丈夫ですが、観光地としては恥ずかしいと思いました。

と、いろんなことを思った富士登山。今のところリベンジの予定は…。賢者が『めいれいさせろ』を選択して、オレを『たたかう』にしたら来年もう一回行こうかなあ…。(了)

JICの短期留学モスクワ大学

短期ロシア語研修新プログラムが完成しました！

モスクワ国立大学。旧ソ連・ロシアで最大の高等教育機関で、世界有数の科学・学術センターのひとつです。1755 年 4 月、M. L. ロモノソフによって設立されました。当初は哲学部、法学部、薬学部および予備教育学部から出発しましたが、現在では数学、物理学、化学、生物学、地質学、機械工学、歴史学、哲学、心理学、法学、経済学、ジャーナリズム学、国際政治学など 28 の学部といくつかの予備コースがあり、多くの研究者が教育・研究に携わっています。現在の雀が丘のキャンパスは 1949 年～70 年に建設され、230 ヘクタールの敷地内には校舎、学生寮のほか、公園、植物園、天文台など 27 の主要な建物があります。

JICの短期ロシア語研修、人気のラインナップのひとつ、モスクワ大学での研修プログラムがリニューアルしました！
この機会に、250年以上の歴史を持つロシアの最高学府、モスクワ大学でのロシア語研修を体験してみませんか？

レッスンは、国際色豊かなグループレッスン、またはプライベートレッスン。レッスンを受ける校舎は、雀が丘のモスクワ大学キャンパス内に位置しています。地下鉄Universitet（ウニヴェルシチェート）駅が最寄り駅です。宿泊はホームステイ。短期間の滞在でも、ロシア人家族と生活を共にすることで、より効果的にロシア語力の向上を図ることができます。

この秋のスペシャル!! LIDEN & DENZ リデン&デンツ サンクトペテルブルグ校&モスクワ校 St.Petersburg & Moscow

✓「2週間の料分で3週間のロシア語レッスン！」

✓「4週間の料分で6週間のロシア語レッスン！」

ロシア語を勉強するなら、ぜひロシアでも学んでみませんか？発展目ざましいロシアの首都モスクワ。そして芸術の街サンクトペテルブルグ。両都市に学校を持つ“リデン&デンツ”から秋のスペシャルプログラムが登場しました。コース開始日限定です。ぜひこの機会に本場でロシア語研修を！

◆2 週間分のレッスン料分で 3 週間のレッスンが受けられます！
(4 週間分のレッスン料分で 6 週間のレッスンが受けられます！)

◆レッスンは一般コース (20 レッスン/週)、集中コース (25 レッスン/週) から選択可能です！

◆宿泊はホームステイ、または共同アパートです。ホームステイの場合は、1 日 2 食付きです。1 人部屋となります。

◆到着時の送迎が付いています。(注：帰国時の送迎は別料金となります。)

10/25・11/8* 11/22 限定！

注 1) 到着日は直前の日曜日に限ります。

注 2) *印の日が初心者コース開講日。(アルファベットは事前に習得済みであること)

注 3) グループコースのレッスンは 12 月 17 (金) 終了します。

2011 年は 1 月 10 日 (月) にスタートします。

※上記プログラムの詳細はジェーアイシー旅行センター(株)発行のパンフレット「いつでも行ける短期プライベート研修」に記載されています。

資料請求はお気軽に！！ JIC 東京 03-3355-7295 JIC 大阪 06-6944-2315

エクメネの最果てへ

—サハ共和国 冬の旅—

【第7回】岡本 健裕



回を重ねる毎にマニアックさの度合いが強まっていくような気がするこの連載ですが、行き先が行き先なので仕方ありません。ついて来れていない読者の皆様、ごめんなさい。思えば、この JIC インフォメーションにも、敢えて読者に歩み寄らないという姿勢を貫き通すことで、極めて高品質のコンテンツと成った連載がありましたね。そう、『ロシア・旧ソ連製旅客機を訪ねて』(153-159 号掲載)です。いやーあれは凄かった。さぞや多数の読者を置いてきぼりにしたことでしょうが、趣味者をぐいぐい引き込む名紀行文でした(気になった方はバックナンバーをチェック!)。自分がそれに匹敵するものが書けるとは思っていませんが、「こんなのもアリなんだ」と勇気づけられたので、連載の方針を定めました。マニアックさには開き直ろう、と。読者の皆様、もう一度ごめんなさい。そして…あきらめてください。

前回から紹介しているヴェルホヤンスク地区(ウールス)博物館は、屋内にばかり展示物が並んでいるわけではありません。博物館の所蔵する展示品のハイライト、それは屋外の庭にある「ユルタ」です。ユルタとは何でしょうか。それは、モンゴルでゲル、中国でパオ等と呼称されているもののロシア語名(юрта)、つまり、移動可能なテント式住居のことです。ここには、「ヤクート式」ユルタと「エヴェンキ式」ユルタが展示されています。中にも入れますよ、もちろん。



<ヤクート式ユルタ>

まずエヴェンキ式。これはたくさんの細くて長い木製の骨を円錐形にまとめ、布をかぶせた形をしています。アメリカインディアンの使っていたテント「ティピー」にそっくりな、というかモロそのまんまの構造で、まことにシンプル。酷寒の地で暮らすにはちょっと辛そうに思えますが、移動には便利そうです。エヴェンキはサハ共和国の住民構成の約 2% (18,000 人) を占める民族です。と聞くと少なく思えますが、サハ共和国の人口の大多数は都市部に居住しているため、共和国北部の、ヴェルホヤンスク地方のあるあたりではもっとその比率が高まり、重要な勢力となるそうです。エヴェンキは、伝統的にトナカイの遊牧を生業としている人が多いので、移動を前提とした構造は合理的です。

次はヤクート式ですが、こっちはずいぶん印象が違います。まず形。ゲル、パオといえど円筒形、と勝手に思っていました。ヤクート式ユルタは四角いのです。それが上に行くほどすぼまった台形になっていて、お菓子のチロルチョコみたい。

出入り口は側面に開けられた四角い穴で、ぴったりの大きさに作られたふた状の扉が蝶番で留められています。開けて中に入れてもらいました。内部もやっぱりイメージと違います。外観は土を塗り込めてあったのでわかりませんでした。全部、丸木を組んで作ってあるのです。さらに、本格的な土製のかまどがあり、煙突が天井へ刺さっています。うん、これはどこからどう見ても、移動式住居ではありません。



<エヴェンキ式ユルタ>



<ヤクート式ユルタの内部>

ん。単に「家」です。でも、何度確認してもロシア語ではユルタなのだそうです。言葉の上でどういう区別がされているのか、よくわかりません。

恒常的建築物たることが判明したヤクート式ユルタの中で、職員の方から紅茶をいただきながら、そこでの生活様式についての説明を受けました。それにしてもここは、博物館の設備ということもあるのでしょうか、全然寒くありません。快適です。布一枚のエヴェンキ式と違って、移動の便を犠牲にする代わりに、居住性を追求してこの姿にたどりついたようです。職員の方のお話では、かつてこの「展示物ユルタ」を宿泊施設として使いながら、1 ヶ月近くも滞在した旅行者がいたそうです。確かに設備上は申し分ないでしょう。でもそんなことが許されるなんて、何とも自由度の高い博物館ですね。

博物館を辞して、今日の宿、ヴェルホヤンスクのホテルへと向かいます。小規模な町なので、博物館も、学校も、ホテルも、全部すぐ近くにまとまっています。ホテルの名前は「ポーリュスホーラダ (полюс холода)」、ずばりロシア



<ホテル「寒極」>

語で寒極という意味です。水色に塗られた木造 2 階建てで、テラスがついたかわいい外観です。

中に入ると玄関すぐ左側の部屋で防寒着やヴァーレンキ(フェルト製防寒靴)を脱げるようになっています。右側には食堂があり、その奥がキッチン。1 階にはそのほか、トイレと浴室があります。このトイレ、水洗式なんです、ちょっ

と変わってます。流したら何と、もわーんと湯気が！そう、お湯が流れるんです。それも当然ですね、この酷寒の地でトイレに「水」を流したら、その先でどんな悲劇が発生することか…、想像したくありません(ノノ)。ホテルの 2 階には 4 室あります。そのうち客室が 3 室、1 室は従業員の控え室になっています。どの部屋も最大 2-3 名収容できる造りで、少なくとも合計 8 名は宿泊可能のようです。今回このホテルの宿泊客は、私、ヤクーツクの旅行会社のサルダナさん、新聞記者のオオノ氏の 3 名ですが、贅沢に 1 人 1 室ずつ使わせていただきました。

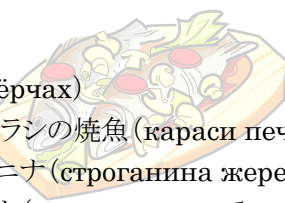
荷物を解いて人心地つくと早速 1 階の食堂で夕食です。では、この日いただいた食事メニューを紹介しましょう。



<ホテルの客室>

■冷たいメニュー

1. キョルチャフ(кёрчач)
2. フナの仲間、カラシの焼魚(караси печёные)
3. 馬肉のストロガニナ(строганина жеребяти́на)
4. 魚のストロガニナ(строганина рыбная)



いきなりわけのわからないメニューに面食らっている皆様、ちゃんとマニャックに説明いたしますのでご心配なく。

まずキョルチャフ。これは連載の第 2 回で紹介したので覚えておいでの方もいらっしゃるでしょう。クッキーくらい大きさに凍らせたミルクのシャーベットです。サハ共和国ではたびたび食卓に上るデザートですが、口どけさわやかで、おいしい。いくらでも食べられます。

カラシという魚も、連載の第 2 回で少し紹介しましたね。そうです、あの全てが凍った市場で売られていた小さな魚たちです。ところでこのメニュー、焼いて食べるにもかかわらず、なぜか冷ましてあるのです。あったかい方がおいしいと思うけどなあ…。ちょっと小骨が多いですが、味は日本人にもなじみある、白身の焼魚でした。特にソースはなく、塩をつけて食べます。

さて、次はストロガニナ。連載 7 回目にしてようやく紹介いたしますが、これは冬のヤクート人のソウルフードと言ってもいいくらい、超重要な食べ物で、凍った魚や肉を薄く



削ぎ切りにした料理です。

魚は特にチール(чир)が好んで用いられるようです。チール、これまた連載第 2 回で紹介しましたね。市場で「地獄の剣山」になっていたあの大きな魚です。あれを、凍ったままナイフで削って皿に盛り付ければ出来上がり。だから、カンナ屑のようになってくると巻いた形をしています。少し塩をつけて口に入れると、半分融けながらシャリッとした食感が混ざり合います。刺身で生魚になじんでいる日本人には親しみやすい、大変おいしい料理ですよ。

一方、肉のストログニナは馬肉が使われています。皆さん、肉と言えばどんな動物を思い浮かべますか？日本人なら牛、豚、鶏が筆頭でしょう。ところがヤクート人にとってそれは圧倒的に馬なんです。市場へ行っても馬、スーパーへ行っても馬、どこへ行っても肉売り場では、巨大な馬肉の塊が売られているのが目立ちます。ヤクート人の方々は、この馬肉こそを主食とみなしていて、本当によく食べんです。それこそ茶碗でご飯を食べるかのよう。サルダナさんは、かつて日本に留学していた頃、肉が高くて全然食べられず、大いに困ったのだそうです。さて、馬肉のストログニナ、食べてみると凍った馬刺しそのものです。少しくセがあるので日本人には好みが見られるかもしれません。

■温かいメニュー

1. サラマート(саламат)
2. チールのウハー(уха из чира)
3. ウサギとキャベツの蒸し煮(заяц тушёный с капустой)

またまたよくわからないものが出てきましたね。サラマート。これは牛乳とチーズと小麦粉を火にかけて練り上げたものです。原料を見ればおわかりでしょう、つまりホワイトソースです。でも、特に何かにかけるものでもなく、スプーンですくって単独で食べます。うーん、こってり！

ウハーはご存知の方も多いでしょう、ロシア料理の魚のスープです。ただそこに使われている魚がチール、というあたりがヤクート風ですね。魚がおいしいので、スープも

いい味です。

ウサギとキャベツのメニューは、このヴェルホヤンスク近くで獲ったウサギを調理したもので、塩味ベースのシンプルな蒸し煮です。ウサギ肉、食べたことあるかたはご存知でしょう、骨と肉が入り組んでいて、食べるのが結構難しいんですよ。しかも、ここヴェルホヤンスクのウサギ肉は、野生で鍛え上げられた弾力たっぷりの筋肉、ナイフとフォークでしばし格闘することになりました。

■パン類

1. ヤクート風レペーシュキ(лепешки якутские)
2. ヤクート風ピロシキ(пирожки якутские)
3. 白パン(хлеб пшеничный)

レペーシュキとはロシアの平たいパンの一種です。ヤクート風は丸ボーロを大きくしたような形状をしています。材料は小麦粉のようです。形以外に、何をもってヤクート風と言ったものか、実はよくわかりません。すみません。

ピロシキはご存知ですね。具の入った揚げパンです。ただ、ヤクート風は平たい形をしていて、揚げるのではなくフライパンで焼いて作られているみたいです。ちょうどおやきのようなものですね。

白パンは、ごく普通の小麦粉パン(ロシアで言うところのバトン)でした。

以上で大体おわかりかと思いますが、ヤクート料理というのは、大別すると魚系、肉系メニューに分かれています。そして、何よりも素材勝負なのです。調理上、複雑な味付けがあまりされず、ちょっと塩をつけて食べるというスタイルが多いんですね。魚系メニューは、普段から豊富な魚介の味を楽しんでいる日本人にとって、きっと舌によく合うことでしょう。一方、肉系メニューが素材勝負で出てくると、それはつまり、ケモノ感まるだしのワイルド料理となります。うーん、ちょっとこっちは万人受けしないかもしれないなあ…。そうそう、気をつけなければならないのは量です。大抵の日本人には多すぎる量が出てきますので、まともにも人数分注文すると食べきれなくなること間違いなし。モンゴル系の顔立ちをしていても、ヤクート人の胃袋は日本人のそれとずいぶん違うみたいです。

それでは、ヴェルホヤンスクの第 1 夜となりました。おやすみなさい。

＜つづく＞

※掲載写真は全て北海道新聞社の大能記者撮影





東京・大阪などで行われる コンサートやバレエ など



ついにやって来ました『芸術の秋』!!!

今シーズンも興味深い演目が盛りだくさんです。

この機会にクラシックコンサートやバレエ鑑賞に足を運んでみてはいかがでしょうか？

絵画



バレエ



音楽



映画



オペラ



	プログラム	日程	場所
	ロシア連邦少年少女絵画展	10/21~26 日	埼玉 / さいたま市立大宮小学校
	ボリショイ・バレエ & マリインスキー・バレエ合同公演	10/23, 24, 26, 27	東京 / 東京文化会館
	聖響／チャイコフスキー選集	10/31	大阪 / シンフォニーホール
	G・ヴィシネフスカヤ・コンサート & マスタークラス	11 月	東京 / 武蔵野市民文化会館 ほか
	モスクワ少年合唱団公演	11/10,11,12,13	千葉・東京ほか
	モスクワ・カルテット全国コンサート [アレクサンドル・ツィガンコフ(ドラム奏者)夫妻 & ヴァレリー・ザジーギン(バラライカ奏者)夫妻出演]	11/5~11/25	札幌・新潟・長野ほか
	西本智実 with ミツシャ・マイルスキー & ラトビア国立交響楽団	11/21-12/11	香川・岡山・広島ほか
	ワレリー・ゲルギエフ指揮ロンドン交響楽団	11/26,12,1	東京 / サントリーホール
	ロシア民謡アンサンブル・ルースカヤ・ヤールマルカ	11/28,12/5,10,12,13	群馬・東京ほか
	A・P・チェーホフ生誕 150 周年記念映画祭	11/28	東京 / 浜離宮朝日ホール
	西本智実(指揮) with ラトビア国立交響楽団	12/2	東京 / サントリーホール
	レニングラード国立バレエ 「ロミオとジュリエット」「くるみ割り人形」他	12/8~12/28 2011 1/2~9	東京 / 東京文化会館 ほか
	堤剛プロデュース 2010 ロシア音楽の華	12/18	東京 / サントリーホール
	P・I・チャイコフスキー作曲 オペラ「王女イオランタ」公演	12/22・23	東京・草月ホール ほか
	現代ロシア石版画作家展	12/13~18	東京 / 文房堂ギャラリー
	「チェブラーシカ」新作三部作上映	12 月	全国各地ロードショー

※ 上記に記載されているプログラムは、一部です。他の都市での公演もある場合がありますので、
詳しくは各プログラムのホームページ等でご確認下さい。

※ チケットの販売はしておりません。詳細に関しては各チケットオフィス、又は公演場所にお問い合わせ下さい。

※ 上記日程は予告無しに変更になる場合がありますので、予めご了承下さい。



JIC オススメの 教科書・文庫 など



「ニッポンの海外旅行」～若者と観光メディアの 50 年史

山口誠著・ちくま新書

最近、話題の新刊書です。本書は、1964 年の海外渡航自由化以来、日本の海外旅行とくに若者の海外旅行のかたちがどう変化してきたかを、当時発刊され人気を博した旅行記やガイドブック(観光メディア)との関係で分析したもので、海外旅行の変遷とともにこの 50 年間の日本社会の変動を実に鮮やかに映し出しています。

本書の概要は、ざっと以下のような内容です。

①**問題意識**；「最近の若者は海外旅行に行かなくなった」と言われる。これは事実だが、もっぱら「若者の質の変化」に焦点を当てて議論されることが多かった。しかし、若者の変化だけでなく、海外旅行そのものの変化も検討しなければ、若者の海外旅行離れの本当の原因は分からない。この 50 年間で海外旅行のかたちは何が変わったのか？

②**1960 年代以前**；「海外旅行」という概念は、日本では 1964 年以降に生まれ定着したものだ。それ以前の日本人にとっての海外イメージは、古くは遣唐使の時代から先進文明を学ぶための視察や留学先であり、戦前は「外地」と呼ばれた中国、朝鮮などの殖民先であり、また明治以来続けられた南米、ハワイなどの労働移民先であった。日本の旅行の形態は江戸時代に一般化した伊勢参詣に示されるように、「大義名分を掲げた団体旅行」が長い間一般的であり支配的であった。

③**1960 年代**；1964 年に海外渡航が自由化されたが、日本の場合、海外旅行もまた添乗員付きの**団体旅行(パック・ツアー)**が長らく一般的であった。しかし、ベストセラーになった小田実の「何でも見てやろう」(1961 年)が若者たちに欧米流の「歩く旅」＝長期・低予算・周遊の特徴を持つ**バックパッカー**の旅を紹介し、これを広げる契機となった。

④**1970 年代**；1972 年に海外渡航者数は 100 万人を突破、うち半分近くの 45% が 20 代の若者で占められていた。若者が海外渡航者の主流だった時代があったのである。チャーター便を利用した割引航空券や「自由交歓旅行」が大学生協連から発売され、若者の海外旅行を後押しした。中でもダイヤモンドビッグ社の DST (ダイヤモンド・スチューデント・ツアー) とリクルートのヤングツアーが 70 年代後半競争しあって若者の海外旅行市場を拡大した。当時、

秋の夜長に読書はいかがですか？

この 1 冊で日本人の海外旅行に対する見方がどのように変わっていったかが手に取るように分かります。

海外旅行はまだ「一生一度の大イベント」。1 ヶ月間、ときには 2 ヶ月間ほどかけてヨーロッパやアメリカを渡り歩くツアーが多かった。DST が参加者に配布した旅行説明書や参加者体験記をもとにして「**地球の歩き方**」というガイドブックが生まれた(当初は非売品で参加者配布用。79 年から市販開始)。

⑤**1980 年代**；86 年に出版されベストセラーとなった**沢木耕太郎**の『深夜特急』が第 2 世代のバックパッカーを生み出した。それまで旅先としては一般的でなかったアジアが再発見され、若者はアジアに「自分探し」の旅に出かけるようになった。折りしも、「**AB-ROAD**」「**BLANCA**」に代表される旅行情報誌が、**格安航空券**ビジネスと新しい海外旅行のかたちを提供するようになり、旅行業界の勢力地図を塗り替える作用を果たした。しかも、1985 年のプラザ合意以後、円は短期間で 1 ドル=240 円から 120 円となり、「海外に行けば何でも半額セール！」で、空前の海外旅行ブームをもたらした。1990 年に海外渡航者数は 1100 万人を超える。もはや『一生一度のイベント』ではなくなり、何度も気軽に海外に出かけるリピーターが登場した。「地球の歩き方」も総合ガイドブックへと変貌していった。まだ海外旅行は添乗員付きの団体旅行(パック・ツアー)が主流だったが、航空券とホテル、送迎だけをつけた「**スケルトン・ツアー**」＝格安旅行商品が 80 年代後半から登場した。

⑥**1990 年代**；90 年代前半はバブル経済の余韻、学生の多くが卒業旅行に出かけた。が、旅行期間は短縮し、以前のような長期間海外を歩き周る旅はほとんど見られなくなった。バックパッカーたちにも「沈没する」(1 か所に長く滞在し半ば住み着く)第 3 世代が現れた。日本の旅行業界では、スケルトン・ツアーが市場規模を拡大し、「**個人旅行**」という概念が定着した。それとともに、「地球の歩き方」やその他の旅行ガイドブックでも、紙面がグルメやショッピングなどの消費情報に多く割かれるようになった。1996 年の**猿岩石ブーム**で日本の渡航者数はピーク(1600 万人超)に達したが、その後渡航者数は 10 年以上も停滞し、若者の海外旅行者数は減少の一途をたどっている。





⑦2000 年代; スケルトン・ツアーが海外旅行の主力商品として完全に定着した。ガイドブックも JTB「るるぶ」、昭文社「マップル」など、ビジュアルで、都市消費情報を厳選したカタログ型ガイドブックが売れ筋となった。こうして、「歩かない」個人

人旅行の定番化が進んだ。これが、今日に続く、日本の海外旅行の長い停滞を引き起こし、若者の海外旅行離れの原因となった。スケルトン・ツアーは海外旅行の敷居を下げ、海外旅行の大衆化に貢献したが、一方、3-4 泊で行ける東アジア諸都市カビーチ・リゾートの 2 大エリアに海外旅行を集中させ、それ以外の多様な「旅のかたち」がほとんど見えなくなるか、または実現が面倒で難しくなるといふ結果を引き起こした。スケルトン・ツアーは、どこに行っても「買い・食い」が中心で、端的に言えば、ソウルではなく台北にいく理由が、価格差以外に見当たらなくなった。また、短期間の滞在中にショッピングやグルメを中心とする予定を詰め込むには事前に情報を集め、綿密な準備が必要だが、そういった予習が苦手な学生や若者は、海外旅行そのものを敬遠するようになる。スケルトン・ツアーに代わる「新しい魅力的な旅のかたち」が、旅行業界から提供されていないことが海外旅行のかくも長い停滞と若者の海外旅行離れの根本原因である。

* * *

私もまた旅行業に携わる者として、本書を興味深く読みました。そして大きな刺激を受けました。

私は、旅行業は「文化交流産業」であると考えています。若者をはじめ多くの人々に「まだ見ぬ他者と出会い、自己を相対化して、視野を広げていく方法」の一つを提供し、文化交流をサポートする産業が旅行業です。そういう意味で、ロシア(旧ソ連)と日本との異文化の出会いの場を

様々なかたちで提供することを目的として、私たちはジェーアイシー旅行センターの旅行業務と国際親善交流センターの交流活動とを行なってきました。文化は画一化できないからこそ文化なのであり、その独自の価値を光らせるものです。著者が分析しているように、スケルトン・ツアーは文化のある種の画一化、定番化(別の言葉で言えば「コンビニ化」)であるが故に、日本の海外旅行に消費者の飽きと停滞とを引き起こしたのだと思います。

したがって、これまでに様々な交流を通じて積み重ねてきた経験や知識を総動員し、さらに新しい参加者を招き寄せるような面白い企画、ロシアと日本との新しい出会いの場を作り出していくこと、著者の山口氏の言葉を借りて言えば、「旅先の日常生活に文脈化する」「歩く旅」を再び作り出していくことが、ロシア旅行の分野においても大切だと思います。ロシアにも日本にも、興味の尽きない独自の文化が豊富にそろっています。智慧を絞れば、まだまだ新しい可能性を拓くことができると思います。

もう一点。私自身は 1970 年代に学生生活を送り、80 年代以降、旧ソ連(ロシア)や中国、モンゴルへの旅行業に関係を持つようになりました。本書が分析対象としている 1960 年代半ばから今日までの海外旅行と観光メディアと日本社会の変動は、そのまま私の青春時代から今日までの人生に重なるため、その時々を懐かしく、また同時に「そういえば、これとよく似たことを自分もやっていたな」という感慨をもって読みました。おそらく、80 年代に学生時代を過ごした世代、90 年代に学生生活を送った次の世代、さらに 2000 年代に学生生活を送った若い世代、その時々海外旅行に出かけたすべての世代にとって、それぞれに思い当たることが、本書を読めばあるだろうと思います。それもまた読書の楽しみを引き出してくれるだろうと思います。

(2010 年 8 月 25 日記、伏田)



JIC ロシアセミナー・留学相談会 2010 のお知らせ

◆日時 平成 22 年 11 月 13 日(土)

第一部(講演会) 13:30~15:00

第二部(留学説明会・個別相談会) 15:15~16:45

◆会場 住友不動産新宿オークタワー1 階会議室 Room1
<http://www.bellesalle.co.jp/oaktower/access.html>

◆講師 村田真一 先生 (上智大学教授)

◆テーマ 文化が奏でるロシア — 演劇、映画、若者 —
 想像力と創造力がみごとに織り成し、生と芸術がしっかり向き合いながら時代の変化を見つめてきたロシア文化。さて、これからどのような煌きで私たちを魅了してくれるのでしょうか。

◆参加費 1,000 円(当日受付にてお支払いください)

◆お申込先

E-mail: jictokyo@jic-web.co.jp

Tel: 03-3355-7294 Fax: 03-3355-7290

◆お申込方法

JIC 国際親善交流センターまで E-mail、Fax、お電話でお申込ください。お申込の際には①お名前②電話番号、E-mail アドレス③ご職業(学校名または会社名)④留学・講座に関する個別相談をご希望の方はその旨をお知らせください。E-mail でのお申込の際には件名を「JIC ロシアセミナー参加希望」としてお送りください。

◆お申込期限

11 月 11 日(木) 定員になり次第締め切らせていただきます。

JICモスクワ通信 vol.22



夜行列車でボーログダへ

現在ロシアには、モスクワ、ペテルブルグという大都会、2014年冬オリンピック予定のソチ、黄金の輪のヴラジーミル、スズダリなどがあり、結構日本の旅行客の注目を集



ていますが、そんなに有名ではないボーログダという町についてお話ししたいと思います。一般的なロシア人でもボーログダをあまり知らない人が多いですが、ロシアの昔の町の様子を見てみたいと考えている方にはお勧めです。8月のはじめにJICモスクワ事務所の相澤・ジーマの2人でボーログダに行ってきました。モスクワから北西に約500kmに位置する「ルースキー・セービエル」(北ロシア地方)の代表的な町です。森林が多く、モスクワより寒く、人口も少ないですが、昔の伝統と習慣はしっかりと保存されています。例えば、その地方の村に行ってみると、手織物をする人たちが多くいます。自然もとても綺麗です。ひとつ面白い話があります。モスクワに住んでいる方はご存知かもしれませんが、モスクワでも「ボロゴーツコエ・バター」(ボーログダ・バター)が売られています。他のロシア製バターより美味しいです。ボーログダの近くにシェクスナ川があり、シェクスナの岸には氾濫原がたくさんあります。昔からその氾濫原で草を食べる牛の牛乳はともおいしい事が知られていました。その結果、もちろん、

バターがおいしいのです。ボーログダ州は結構広いですが、人口は少ないです。森林が多く、広さは約14万4千平方キロ(北海道のほぼ2倍)で人口は120万人程(札幌の3分の1)です。モスクワから夜行列車で行けます。夕方ヤロスラフスキー駅から出発し、早朝ボーログダに着き、バスでボーログダ州の興味深い2箇所まで行きました。1つ目はキリル・ペロゼルススキー修道院です。ボーログダから120km、バスで2時間ぐらいです。修道院はシベルスコエ湖の畔にあります。もう1つは、その近くにあるフェラポントフ修道院です。両方とも14世紀に創立されました。魅力はイコンとフレスコです。フェラポントフには、ディオニシーというモスクワの有名なイコン画家にフレスコがつけられており、2000年に世界遺産に指定されました。修道院の前にも湖があり、今年の夏は異常に暑かったため、そこで水浴びをしました。ボーログダに戻り、列車が出発するまでしばらく町を散歩しました。とても散歩しやすく、木造の建物ばかりの町でした。70年代のソ連には、ボーログダについて有名な歌がありました。「黒い目の私の愛人はどこでしょう？ボーログダにいますよ。綺麗に彫られている柵の家に・・・」。その彫られている柵をみると、ボーログダに誰かの愛人である、自分の運命を待っている美人はいるでしょう・・・と感激しました。最後に、ボーログダの中心にあるクレムリンを見ました。モスクワのクレムリンよりももちろん小さいですが、とても美しいです。ボーログダを出発したとき、ロシア人である私の心は、初めて行ってもあの町とつながりを感じ、必ず戻りたいと思いました。冬が近いので、ロシアのサンタクロースが住んでいるボーログダ州のベリーキー・ウースチュグにも行ってみたいと思います。(モスクワ トカチェンコ・ドミトリー)

カリヤンは20歳になってから。

みなさんは кальян(カリヤン)というロシア単語ご存知ですか？先日、友人のダーチャ(郊外の邸宅・別荘)に遊びに行ったときのこと。20人くらいで外で敷物に座ってみんなでおしゃべりして団らんしました。その集まりのど真ん中に見知らぬ器具がどんと立っていました。器具からは時折ぐつぐつと沸いてるような怪しい音が聞こえ、そこからパイプが伸びています。そして、ロシア人たちが代わる代わるパイプを口でくわえて何かを吸っていました。その光景を目にした私はとんでもないところに呼ばれてしまったと思いました。シン(私)もどう？と声がかかります。私は何か麻薬系かもなんて想像をしていたので、断ろうかどうしようか、一瞬の間で何度も考えた末、結局吸ってみました。で、結果はメンソール味のいい香りのする気体でした。このカリヤン。日本語では・・・水タバコと訳されるそうです。つまりこれは喫煙具だったのです。その一週間後、私はカザンにいました。その旅先ですぐ目に入りました。モスクワではほとんど見ない кальян



の文字。実はここはイスラム教徒が多く住み、クレムリン内にモスクがあるような街。イスラム圏で市民権のある水タバコの店が広まっていることが示すのは、同じ国でもやはり文化的、歴史的背景から人々の嗜好品も変わるものであり、その影響の大きさを改めて実感し、この国が広いことを再認識したのでした。

※なお、今回は体験がてらに挑戦しましたが、私はタバコを好まない非喫煙者であり、水タバコも健康を損なうような人体への影響も報告されておりますので、決しておすすめするものではありません。ご注意ください。

(モスクワ 相澤進之助)

ロシア (旧ソ連) よりペンパル募集!

お友達をつくりましょう!

① Name ② Sex ③ Born(Age) ④ Address ⑤ E-mail ⑥ Occupation, Hobby ⑦ Language

①Kurnikova Anastasia ②Female ③1991 ④Russia, Ekaterinburg ⑤vampirko@uralweb.ru ⑥Dance, Japanese culture ⑦Russian, English

①Makurina Marina ②Female ③1990 ④Ukraine, Kiev ⑤atsuaki@yandex.ru ⑥I'm really interested in this country, I want to know something real about your life => and I'm going to learn Japanese language ⑦English, Russian

①Kirova Irina ②Female ③1991 ④Russia, Vologda ⑤arika@mail.ru ⑥I like to studying Japanese, reading, singing, watching video, listening music, enjoying computer game ⑦Russian

①Starygin Dmitriy ②Male ③1989 ④Uzbekistan, Tashkent ⑤acvistesdelorian@mail.ru ⑥History, Biology, study of the world people's culture ⑦Russian, English

①Dorokhov Maxim ②Male ③1989 ④Russia, Magadan ⑤malikov90@mail.ru ⑥Japanese culture, Japanese language, Japanese music, Anime, Manga ⑦Japanese, Russian, English

①Almazov Dmitriy ②Male ③1989 ④Russia, Cheboksary ⑤almazov.dmitriy@mail.ru ⑥? ⑦Russian, English

①Evtukhova Elena ②Female ③1992 ④Belarus, Minsk ⑤lenakiforest@rambler.ru ⑥Design, Art, Music, Photo ⑦Russian, English, Japanese

①Tverintneva Natalia ②Female ③1987 ④Russia, Moscow ⑤Uchixa-Itachi@yandex.com ⑥Culture, life, Japanese tradition ⑦Russian

①Komov Sergey ②Male ③1969 ④Russia, Omsk ⑤seboko@rambler.ru ⑥Japanese culture, Philosophy, Poem, Martial art ⑦Russian

①Afnas'ev Andrey ②Male ③1993 ④Russia, Nizhevtartovsk ⑤foxtrot902@hotmail.com ⑥Modern history, Japanese Culture and society, Music, Aikido, politics ⑦Russian, English

①Belolapova Anastasia ②Female ③1988 ④Russia, Kazan ⑤dawn2101@yandex.ru ⑥Foreign



language, Music, Books, Travel ⑦ English, Japanese, Russian

①Morozova Margarita ②Female ③1990 ④? ⑤4.ritakoks7@yandex.ru ⑥Music, Photo ⑦Russian, English

①Lomakina Irina ②Female ③1970 ④Ukraine, Kiev ⑤lomakinairi@rambler.ru ⑥Studying Japanese language, Calligraphy art ⑦Japanese

①Bezruchko Lesya ②Female ③1981 ④Ukraine, Kiev ⑤lisabet2001@mail.ru ⑥Theatre, Dance, Travel, Art ⑦English

①Yemelyanova Irina ②Female ③? ④Russia, Biisk ⑤sakura1013@mail.ru ⑥Music ⑦Russian, English

①Sokolnikova Veronica ②Female ③1992 ④Russia, Berezniki ⑤lusesamaonesan@yandex.ru ⑥Japanese culture, music, internet, reading ⑦Russian, English

①Borzenko Anastasia ②Female ③1994 ④Russia, Nizhevtartovsk ⑤anas.borzenko1994@yandex.ru ⑥Swimming, The design of clothes, Japanese culture ⑦Russian

①Lukanskaya Galina ②Female ③1991 ④Russia, Vladivostok ⑤delphinia@bk.ru ⑥Japanese culture, Fantasy, Music, Studying Japanese language ⑦Russian, Japanese

①Pakhtaeva Kristina ②Female ③1988 ④Russia, Surgut ⑤biscetti@mail.ru ⑥Culture of Japan, Travel. Anime ⑦Russian

①Frolova Arina ②Female ③1993 ④Russia, Ioshkar-Ola ⑤fromarina111@rambler.ru ⑥Culture of Japan, Japanese language, Anime, Japanese literature, Manga, Music ⑦Russian

①Rozanova Anastasia ②Female ③1991 ④Russia, Moscow ⑤milka000@bk.ru ⑥Drawing, Films, Ecology, Animal kingdom, Embroidery, Russian literature ⑦Russian

①Kiyaikina Irina ②Female ③1993 ④Russia, Saratov ⑤kiyaikina11@mail.ru ⑥Japanese culture, Anime, Manga, Horror films ⑦Russian

①Dolgoplov Edward ②Male ③1968 ④Russia, Arkhangelsk ⑤edward2527@mail.ru ⑥Japan, Art cinema, Japanese language ⑦English, Japanese

①Davidova Lera ②Female ③1993 ④Ukraine, Kiev ⑤mail_apple@mail.ru ⑥Reading, writing, studying journalistic, watching anime, listening to j-music, photographing ⑦English, Russian

Lermontov ⑤Margo_zx89@mail.ru ⑥Japanese language and culture, music, art & sports ⑦Russian





10~1月の予定

- 10月12日 JIC 大阪 ロシア語講座後期スタート!
- 10月18日 JIC 東京 ロシア語講座後期スタート!
- 10月23日 JIC 東京 留学相談会
- 11月13日 JIC 東京 ロシアセミナー
- 12月18日 JIC 東京 留学相談会
- 12月30日~1月4日 年末年始休業
- 2011年1月15日 JIC 東京 留学相談会
- 1月20日 長期留学4月出発生申込締切



最新情報は JIC のホームページに
随時掲載いたします。ご確認ください!

◆◆編集後記◆◆

暑い夏が終わり、いよいよ秋のはじまりです。それにしても、今年の夏は異常と言って良いほど暑かったですね。それもそのはず、1898 年から始まった気象庁の観測史上最高の猛暑を記録したそうです。また、暑さは日本だけにとどまらず、皆さんも良くご存じの通り、ロシアでも 40 度を超える歴史的な猛暑になりました。今ではあの“うだる”ような暑さが嘘のようです。

これからは、紅葉を見に行ったり、ジョギングをしたり、トレッキングに出かけたり・・・と、屋外で体を動かすにはとても気持ちの良い季節ですね。体調管理には十分に気をつけて、皆さんも素敵な秋をEnjoyしてください!

(JIC 東京 白井 真理奈)

JICのロシア語研修

ロシア長期留学4月生・募集中

【期間】2011年4月より10ヶ月

【締切】2011年1月20日

モスクワ国立大学 550,000 円 (授業料 10 ヶ月)

サクト・ペテルブルグ国立大学 504,000 円

(授業料 10 ヶ月)

ウラジオストク極東大学 310,000 円 (授業料 10 ヶ月)

* 上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金及び取得手数料などががかかります。

予価です



ロシア語個人研修 (随時募集)

☆モスクワ・タリパス社 1週間~4週間 (ホームステイ3食付)

☆モスクワ大学 3週間~長期 (大学寮1人部屋)

☆G&Rインターナショナル 1週間~長期

(ホームステイ2食付/大学寮2人部屋)

☆ペテルブルグ・パートナー社 (ホームステイ2食付)

☆ペテルブルグ大学 1ヶ月~長期

(大学寮1人部屋/2人部屋)

☆ウラジオストク極東大学 1週間~長期 (大学寮1人部屋)

☆ウラジオストク極東大学 1週間~1ヶ月 (ホームステイ2食付)

☆ビジット生活体験コース (ホームステイ3食付)

ロシア語グループ&個人研修 (随時募集)

リデン&デンツ スイスの会社出資のロシア語学校。

個人・グループレッスン。モスクワとペテルブルグにあり、インターナショナルな雰囲気。初心者より上級者まで。2週間より可能。基本はホームステイ2食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



デルジャーヴィン・インスティテュート

全ロシアプーシキン博物館の協力により設立された学校で、18世紀の建物内で授業が行われます。アットホームな雰囲気でお勧めです。グループレッスン、1週間より可能。基本はホームステイ2食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



◆ロシア留学旅行相談 (東京・大阪各1人) ◆

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。お気軽にお越しください。

東京事務所 平日 10-18時 土曜 10-16時

大阪事務所 平日 10-18時 土曜 (6-9月のみ) 10-16時

留学・研修各種パンフレットは JIC へご請求下さい。
留学・旅行相談はお気軽に!

~Jクラブ (JIC友の会) のご案内~

JIC インフォメーションを年4回、また JIC のイベント案内をもれなくお届けします。
ご希望の方には入会案内をお送りいたしますので、ご連絡ください。会費は無料です。
国際親善交流センター